

平成 29 年度 第 2 回千葉市教育センター運営協議会議事要旨

千葉市教育センター

- 1 日 時：平成 30 年 1 月 19 日（金）14 時 30 分～16 時 30 分
- 2 場 所：千葉市教育センター 4-1 研修室
- 3 目 的：協議会は教育センターの事業計画その他の重要事項について協議する。
(千葉市教育センター運営協議会規則第 3 条)

4 運営協議会委員

<委員>

[敬称：略]

依田 桂子（小中台小学校長）	増澤 保明（磯辺中学校長）
川崎 浩祐（千葉高等学校長）	布施 勝美（松ヶ丘中学校長）
小幡 智広（院内小学校教諭）	宮内真紀子（さつきが丘西小学校教諭）
岩田 亮（美浜打瀬小学校教諭）	長谷川雅子（稲毛中学校教諭）
福本 順（教育支援課長）欠席	吉岡 龍子（養護教育センター所長）
根本 厚（教育センター所長）	

<スーパーバイザー>

大塚 昌男（元教育センター所長）欠席	小宮山伴与志（千葉大学教育学部長）
岩切 裕（淑徳大学教授/元学校教育部長）	

5 協 議

「平成 29 年度事業の課題に対する達成状況」、「第 1 回教育センター運営協議会での指導事項とその対応」、「今後の課題及び方向性」について総務班、情報教育・広報班、教育研究班、教職員研修班、教育相談班より報告・提案を行った。

（1）第 1 回千葉市教育センター運営協議会における指摘事項への対応

【情報教育・広報事業】

①情報セキュリティに関する支援について

利用者側には、専門講座や調査書作成研修等の場において、リスクと回避方法について説明し、理解を求めてきた。運用・管理側として、運用委託を行っている業者との情報連携、担当者・対応者の属人化を防ぐための要請を行っている。

②web からの教育センター業務の可視化について

対応への遅延が生じているが、各班の担当と進めている。

【教育研究事業】

①新学習指導要領の実施を意識した研究と現場に役立つ資料作成について

8 月に「主体的・対話的で深い学び」を目指すための資料と「児童生徒が『わかった』『できた』と実感できる授業の創造」の資料を Web サイトに掲載した。「授業改善を通して『学びの質』を高めていく」ことを提案し、各学校でも利用していただいている。「週刊教育資料」11 月 13 日号では、「授業を見直すチェック表」と題して紹介された。また、県総合教育センターの協力を得て、全国学力・学習状況調査の分析ツールの学校現場での利用を開始し、各校の学力等の分析に役立てていただいている。次年度の課題研究では、新学習指導要領に対応する「学習指導に関する研究—「主体的・対話的で深

い学び」の実現に向けた学びの追究」を中心に新たな課題研究を加え、現場のニーズに応えていきたい。

②キャリア教育ガイドブック作成と市教研との連携について

教育指導課や市教研キャリア教育部会と連携し、情報交換を行いながらキャリア教育の研究を進め「改訂版キャリア教育ガイドブック」を完成させた。その後、市内全教職員に配布し、各学校においてキャリア教育グランドデザインや年間指導計画の作成に役立てていただき、キャリア教育の推進を図っていく。

【教職員研修事業】

①各教科における特別支援の視点を入れた授業づくりについて

次年度も市教研と連携して実施し、通常学級の中で特別な支援が必要な児童生徒が増えている現状を踏まえ、授業における特別な支援を要する児童生徒に対する適切な指導方法について取り入れていく予定である。また、養護教育センターとも連携を図っていく。

②保護者対応に関する研修について

初任者研修において、基本的な保護者対応を学ぶ研修を引き続く実施していくとともに、リレー研修においては、選択受講講座の中に「保護者対応」に関する講座を開設したいと考えている。また、専門研修では、「学校危機管理」の研修において、保護者対応に関する内容を取り入れていく予定である。

③教育指導課との連携について

次期学習指導要領を見据え、新たに指定研修として実施する、小学校外国語活動担当教員研修、小学校プログラミング研修については、教育指導課との連携を図り、学校現場ですぐに生かせるような内容を検討していく。

【教育相談事業】

①小学生の居場所について

高学年からのニーズが高まっている。市教委各課と連携してスクールカウンセラーの小学校配置の充実等に努力してほしいというご指摘をいただいた。小学校グループ活動プログラムを見直し、体験活動を多く取り入れ、小学生の居場所として充実するよう内容を工夫した。

(2) 質疑 (○が質問及び意見、要望 ・が回答)

【管理運営事業について】

○管理、運営の面から地下室の利用はどのようになっているか知りたい。

・地下1階の部屋は、主に教育相談班のグループ活動で使用している。グループ活動がさらに充実するよう活用したい。

○センター施設の継続利用について決定したこととは何か。管理運営について詳しく教えてもらいたい。

・本センターが今後も継続して利用することが適切と11月の政策会議において決定した。今後も継続利用をすることができるようになり、今後は建築部より大きな改修工事の予算請求をしてもらえらることとなるため、さらに快適に使えるようになる。

【情報教育・広報事業について】

- CHAINS と CABINET のシステム同時更新に関する相互性はどうか。現在相互性がなく、勤務負担が大きいので今後どうなるのか。
 - ・CABINET は教育委員会とつながりを持つように、CHAINS は全職員が使えるように進めている。教育委員会とやり取りができるようにしたいと考え、進めている。
- 情報教育機器の活用に関する研究を進めるということだが、養護教育センターでは、LDの通級指導教室の子供たちの指導にタブレット活用を行っている。教育センターと協力して進めたいがどうか。
 - ・養護教育センターとの共同研究については、担当同士の調整が必要であり、スケジュールやマイルストーンについて協議が必要である。タブレットの活用については、連携して進めていく。

【教育研究事業について】

- 小学校外国語活動の授業に対して不安を持っている。現場の不安を解消できるような手引きなどが必要になると思う。10年、15年先を見据えてと言われているが、現場が困っている所に手を差し伸べてもらえるような研究を考えているか。
 - ・小学校外国語活動に関する研究は過去に取り組んでいる。現場が求めているもの、もしくは10年20年後を見据えたものとしていくかは、ご意見を参考にしたい。現在は、今後10年を見据えて進めている。
- 新学習指導要領に向けた情報収集はどうか。
 - ・これからも積極的に進め、提供できるものについては来年度も引き続き提供できる環境を整えていきたい。

【教職員研修事業について】

- 理論と実践の両立については若年層の研修として話が出たが、20年経験者でも「接遇」に関することが話題となった。また、悉皆研修は20年目経験者研修で終わってしまうが、教職員にとっては、研修を積み重ねることが必要であることから、25年目、30年目の研修を実施してほしい。
 - ・20年経験者研修は千葉県では実施しておらず、千葉市独自で3日間実施している。今後の研修については、ご意見を参考にしていきたい。
- 初任者研修では基本的な保護者対応とあるが、どんな内容か。場合によっては中堅以降も必要ではないか。
 - ・保護者対応は初任研、リレー研修で外部講師を招聘し実施している。内容としては、電話対応、保護者との話し方等基本的な内容を実施した。また、初任者研修の「接遇」の研修では、服装や頭髪その他諸々について講義をいただいた。
- 「接遇」に関する研修は若い方にとって大切である。また、教育センターに来ている研修生へセンターの職員から見て指導が必要となるような内容があるのではないかとと思われる。
 - ・必要に応じその場で指導している。
- 専門研修の「学校の危機管理・保護者対応講座」の受講対象は管理職に限っているのか。そうであれば管理職以外にも全職員対象に実施していただきたい。
 - ・管理職だけでなく、全ての教職員が対象である。
- ミドルリーダーの育成についてどのように考えているか。
 - ・ミドルリーダーを発掘したり育てたりしていくことが教育センターの責務と考えている。
- 次年度教育課程を検討しているが、校内で道徳と外国語への不安感が強い。次年度の夏の専門研修で

も多くの方が希望すると思うが、研修日を複数用意してもらい、希望者が取れるような体制をお願いしたい。また、専門研修ではどのような見通し、充実を考えているか。

- ・平成 30 年度の専門研修では、道徳に関する講座、小学校外国語活動に関する講座をそれぞれ実施する予定である。
- 社会科の現地研修に毎年参加しているが年々参加人数が少なくなっている。4月の段階で行き先や内容が分かるようにしてもらえると申し込みやすい。要望としてお願いしたい。
- ・今年度中に行き先が決定できるよう計画していきたい。
- 市教研連携講座の小学校社会科に参加した。グループ協議が多く、新しい情報や指導法を学ぶ場が少なかったので、研修内容の検討をしていただきたい
- ・市教研の担当者とセンターの担当で検討したい。
- 次年度、小学校外国語活動担当教員研修が実施されるとあり、とてもありがたいと感じた。教育指導課では、中核教員研修を実施しているが、希望校・希望者が全部受けられるものではない。教育センターで実施する研修の対象者は誰なのか。また、内容はどのようなものか知りたい。
- ・平成 30 年度は指定研修として、小学校外国語活動担当教員研修を実施する。対象者は各小学校から外国語活動主任に限定することなく 1 名参加していただく予定である。研修日は稼業日に 2 回、夏休み 1 回を予定している。内容については、指導に困らないよう、クラスルームイングリッシュ、チャンツ、歌、アクティビティー、ICT 機器の活用を紹介する。3 日間行い、スムーズな授業展開ができるようにしていく予定である。
- 推奨研修（新任学年主任、新任研究主任）と 5 年経験者研修や中堅教諭等資質向上研修などが 2 つ、3 つ重なる方が多くいて、苦しいという意見もある。新任ではなく、事後でも（2 年目でも）受けることが可能にならないか。
- ・推奨研修についてはあくまで希望制である。案内文でも希望研修であることを明確にしていく。対象者については、研修内容を考え検討していきたい。
- 道徳、外国語活動への関心が高いが、小学校では平成 30 年度から特別活動、総合的な学習の指導についても喫緊の課題となっている。教育センターでは、キャリア教育についても参考になるものがたくさんある。これからの研修など、考えているのか。
- ・市教研と連携し、各教科領域の研修を提供できるよう、準備していく。
- 12 月 2 日に教育相談公開講座に参加したが、大変貴重な機会であった。教員だけでなく市民も参加していた。今後も広め、継続してほしい。また、回数も増やしていただきたい。もっと多くの方が参加できるよう、同じような講座の開設をお願いしたい。
- ・今後も継続していきたい。土曜日の開催としているが、部活動指導などで来られない先生方もいる。次年度の教育相談公開講座についても多くの市民、教職員に参加していただけるよう計画していく。
- リレー研修 3 年目は、他の研修と比べると満足度が低くなっている。満足度が向上するよう、プログラムを改善するなど、内容を検討してもらいたい。
- ・受講者のアンケート結果をもとに研修内容を見直していきたい。

【教育相談事業について】

- 不登校が将来の引きこもりにつながると思う。教育センターの力を借りながら対応したい。指導員、支援員の研修を充実させたとあるが、担任が個別支援計画、指導計画を作ることも大事なので、実践的な内容を研修の中に取り入れていただきたい。

- ・不登校対策研修で、個別の支援計画作成の大切さについては周知しているが、個別の支援計画を作る研修は設けていない。今後、研修の内容について検討していく。
- 高校の視点から話を聞いていて、手伝えることはないかと思った。小中学校グループ活動やジョイントフェスタの活動を教えていただき、高校生を協力者として派遣したいと思うので、実情を知りたい。
- ・小学校は週1回、中学校は週3回のグループ活動を行っている。子供たちが楽しめ、学校で学ぶ内容を工夫して取り入れている。中学校グループには高校生へ憧れを持ってもらえる機会となるような内容を検討して相談させていただきたい。
- 不登校の数が増えている。全欠の児童生徒の受け入れは養護教育センターでは受け入れできない状況である。
- ・養護教育センターとは連携を取らなければならない点が多くある。
- 夏休み明けに多くなる不登校の増加を防ぐために、ポイントをつかんだ研修などが夏休み前や夏休み中にあるとありがたい。
- ・今後研修内容に含められるようにしたい。
- 家庭訪問相談員の増員をお願いしたい。小中学校とも不登校が多い。しかし、いまだに教育相談班を含めた外部機関との関係が持っていない学校がある。負担が増えることになると思うが、センターからのアプローチをもっと進めてもらえると現場としてありがたい。
- ・実際に各学校に電話を掛けることで、家庭訪問相談員やIT学習、小学校グループにつながった例もある。今後も学校と連絡を取り合っていきたい。

[スーパーバイザーの方々から]

- 文部科学省で有識者会議が開かれ、各大学が現時点での教職員の育成に関する取り組みを報告した。会議では、大学も研修に力を入れるように県・市・その他との連携をし、研修の機能を高めるように言われている。様々な研修があるが、文部科学省からも管理職研修をやるべきではないかと言われている。教職大学院も含めてどうすべきか大学も考え始めているので、今後どうするか相談したい。
- 働き方改革についても今後の課題である。附属小中学校の教職員を対象にデータを集めていこうと考えているが、できればデータ収集や分析の協力をお願いしたい。
- 保護者対応に関することは大学でも手薄な内容であり、このような研修があることはありがたい。大学ができることがあれば、一緒に取り組むか協働して今後も進めていきたいと考えている。
- いろいろと委員の方々から話があった。昨年、それから本年もそうだが1回目から指摘されたことを本当に丁寧に対応していただいている。たくさんの課題・要望・ご意見があり、教育センターは大変だと感じるが、しっかりと対応してくださっているので充実した体制ができていると感じる。
- HPが年々改善されていて、使い勝手が良くなり、求めることがすぐ出てくる。いろいろと工夫されていると感じる。
- 現場の先生方が、接遇、道徳、外国語について時間をかけずに、すぐ実践につながることを学びたい、知りたいという意見があるため、HPの中で校内研修用の資料がすぐに出てくるようなものを作るとよい。
- 現場のニーズに合わせて教育相談など、一層の内容の充実をお願いしたい。詳しい内容でなくても、適切な案内や情報提供でHPを活用してほしい。
- 働き方改革については深刻な問題である。国を挙げて進めているが、本当に実効性があるのか不確か

である。教育センターと教育委員会各課で力を合わせて、センターのできる範囲で改善策を考えてほしい。話題となっている今を大切にしていきたい。

- 「つなぐ」というキーワードを大切にし、センター内での「機能のつなぎ」を大切にしてほしい。喫緊の課題に振り回されずしっかりと進めていただきたい。
- 最後にミドルリーダーの養成、若手の育成については大きな課題である。指導者になる層が少ないのは仕方がないこと。若手を育てていくことで将来的に若手のパワーを大きくできる。若手はエネルギーを持っているので、それを生かすことは大切である。しかし、サポートもしなければならない。